



伊良子清白
をめぐる

清白生誕140年
1877 ▶ 1946

Irako Seihaku the diary of

wandering poet

漂泊の詩人が書き留めた日記



伊良子清白肖像（鳥取県立図書館所蔵）

平成29年1月21日土
▶ 2月27日月

会場 鳥取県立図書館 2階
特別資料展示室 **入場無料**

開館時間 火～金 午前9時～午後6時30分
月・土・日・祝 午前9時～午後5時

休館日 1月30日（月）～2月9日（木）
※図書館特別整理期間のため休館

とっとり県民カレッジ連携講座

郷土文化講演会

平成29年2月18日土

演題 「流離と純化 —詩人伊良子清白をめぐる—」

午後2時～4時

講師 伊良子序氏

鳥取県立図書館
2階 大研修室

定員 80名



手話通訳あり

申込不要

入場無料

伊良子清白 1877~1946

明治10年(1877)、八上郡曳田村(現鳥取市河原町曳田)に生まれる。投稿誌『少年文庫』(後の『文庫』)を中心に詩作活動を広げ、河井醉茗、横瀬夜雨、与謝野鉄幹等の文学者と交流する。明治39年に唯一の詩集『孔雀船』出版後は詩作を絶ち、本業である医師として各地の官立病院に勤める。

代表作「漂泊」から「漂泊の詩人」とも、古典を踏まえた印象派的詩風から「高踏」とも形容される。

晩年は、現在の三重県鳥羽市浜田の漁村に居を構え、医業を中心とした生活を送る。



日記(大正3年1月3日)

台湾滞在中の清白が、日記帳を東京から取り寄せていたことが分かる。清白の日記は、明治38年から書き続けられ、晩年まで続いた。



写真帖

数種の清白肖像をはじめ、家族、知人の写真を収める。

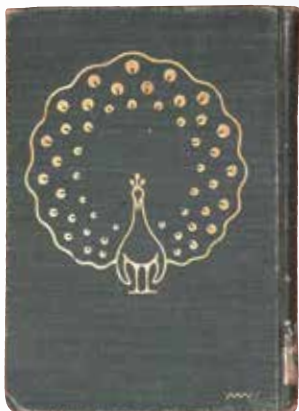


青年期の伊良子清白

写真帖に収められた青年期の清白。

伊良子清白をめぐる

Irago Seihaiku the diary of wandering poet



詩集『孔雀船』初版

明治39年、左久良書房から刊行された初版本。装丁は長原止水。



創作ノート

肉筆のノート資料には、医業、文学情報の収集、清白自身の詩稿などが含まれる。

展示内容

近年関係者から寄贈いただいた伊良子清白関係資料には、日記や創作ノートなど未公開の肉筆資料が含まれる。

『孔雀船』出版以後の清白の日常と文学活動がうかがい知れる初公開資料を紹介します。

- I 「清白」 その漂泊の軌跡
- II 漂泊の詩人が書き留めた日記
- III 清白の詩
— 創作ノートを中心に —

掲載資料 鳥取県立図書館所蔵

郷土文化講演会 「流離と純化 — 詩人 伊良子清白をめぐる —」

講師 伊良子序氏

講師紹介 伊良子清白の孫。元神戸新聞社論説委員。著作に『昭和の女優』、『小津安二郎への旅』、『猫をはこぶ』など。新聞社で学芸部、社会部記者、コラムニストを担当。1996年(平成8)から「神戸100年映画祭」総合プロデューサーを務め、現在顧問。

平成29年2月18日(土)

午後2時~4時

鳥取県立図書館
2階 大研修室

主催・問合せ

鳥取県立図書館

〒680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101
☎ 0857-26-8155 FAX 0857-22-2996
ホームページ www.library.pref.tottori.jp/

開館時間: 火~金/午前9時~午後6時30分、月・土・日・祝/午前9時~午後5時
会期中の休館日: 1月30日(月)~2月9日(木)

交通アクセス

バス: 「県庁・日赤前」下車
バスターミナルから
砂丘・湖山・賀露方面行バスで、約10分
市内回り岩倉・中河原方面行バスで、約15分
徒歩: JR鳥取駅から約20分

